令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 医生丘小 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、 他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を 把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調查内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

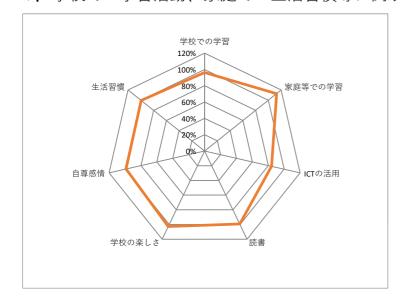
(2) 本校の学力調査結果の分析

	全体的な	全ての問題で全国平均正答率を上回っている。特に、学習指導要領の「知識及び技能」の	全国平均正答率との比較	
		「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」 領域の問題における正答率が特に高い。	上回っている	
国語	よくできた問題	「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」問題や「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分の聞きたいことの中心を捉えたりする」問題		
	努力が必要な問題	「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」問題や「登場人物の相互関係について、描写を基に 捉える」問題に課題がある。		

	会体的 た	全ての問題で全国平均正答率を上回っている。特に、学習指導要領の「図形」領域の問題の工符をがします。	全国平均正答率との比較	
	傾向や特徴など	の正答率が大きく上回っている。問題形式では、記述式の問題における正答率が特に高い。	上回っている	
算数	よくできた問題	「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する」問題や「加法と情報の混合したポイント数の求め方を解釈し、他の場合のポイント数の求め方と答えを記述する」問題。		
	努力が必要な問題	「二つの数の最小公倍数を求める」問題や「百分率で表された割合を分数で表す」問題で全 答率を下回った。	全国及び福岡県の平均正	

	全体的な	全ての問題で全国平均正答率を上回っている。特に、学習指導要領の「粒子」を柱とする	全国平均正答率との比較	
		領域の問題の正答率が大きく上回っている。問題形式では、短答式の問題における正答率が大きく上回っている。	上回っている	
理科	よくできた問題	「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述 する」問題や「自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して改善し、自分の考え		
	努力が必要な問題	「観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ」問題や「提示さ 点で分析して解釈し、自分の考えをもつ」問題	された情報を、複数の視	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○家で自分で計画を立てて学習していると答えた児童が昨年度よりも増えている。学習時間も増え、自主的に学習する姿勢がうかがえる。

○読書を好きと答えた児童が、74.7%いるので、読書への関心は高いと考える。授業時間以外の読書時間を増やす取り組みが必要である。

○友達と協力することや、人と違う意見について考えることが楽しいと感じている児童が多い。コロナ禍でも、授業の中で工夫して話合い活動を取り入れてきた成果が見られる。

○授業や家庭学習においてICTの積極的活用を進める必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○学年の実態に応じて、各教科の授業で、資料を活用して読み取る活動や、根拠を明確にして自分の考えを伝える活動、意見交流を通して自分の考えを深める活動等を更に充実させる。

○授業において、適宜、ICTを効果的に活用していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○各学級で、学級掲示板に家庭学習のよい取組を紹介するなどして、家庭学習の啓発活動を継続して行う。

○読書週間の実施内容や図書館利用状況等、読書に関する取組を保護者へ発信することで、家庭において「本に親しむ」環境づ くりを心がけるよう啓発を図る。